



東京多摩プロバスニュース

第 46 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行:編集委員会 2013. 1. 9.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

キャリアと特技を活かし、次の世代に引き継ごう

第 101 回 定例会

日 時 :平成 24 年 11 月 7 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 :関戸公民館第 3 学習室

出席者 :25 名(会員数 36 名)

第 102 回 定例会

日 時 :平成 24 年 12 月 5 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 :関戸公民館第 3 学習室

出席者 :29 名(会員数 35 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

「親睦か奉仕か」

副会長 増山敏夫

明けましておめでとうございます。2013 年のスタートに当り、度々話題になる会の在り方について思うところを述べてみたいと思う。

前研修・親睦委員長 滝川益男会員が、本誌 41 号に世界のプロバスクラブの歴史、日本のクラブの状況など上手に整理されている。卓話中心の親睦、あるいは研修を加えた研修・親睦、知的奉仕中心の親睦などさまざまである。そして各クラブの特徴はその構成メンバーによって決まるようだ。

わがクラブの場合、「研修・親睦」「地域奉仕」が 2 本の柱のようだが、クラブとしての活動の軸足をどこに置くべきか。結論から言えば 2 本柱ではなく「研修・親睦」が中心で良いと思う。しかしながら、プロバス会員は実社会での豊富なキャリアをお持ちの方が大勢おられる。当然そうしたキャリアを社会に還元する奉仕活動特に ESD (Education for Sustainable Development) 支援などは意味のあることである。既に個人、あるいは別に活動の場を持ってやっておられるのが実情であるが、これらに対してクラブとしては、必要に応じて支援するというスタンスで良いと思う。また、その方が自由に活動できると思う。



新春の富士の眺望く多摩市鶴牧第二公園より>

幸いわがクラブの平均健康寿命は世間一般に比べてかなり高い。寝たきりにならないで、健康寿命を高く維持することは間接的に社会負担を減らす立派な社会貢献である。では健康寿命を維持するためにも会の活性化を如何にすべきか、一つは既に中村昭夫会長の「全員が参加する例会が楽しく、欠かさずに出たいと思う企画」、もう一つはやはり「個人ではできない研修・親睦の企画」であろう。更に同好会・サークル活動の充実も欠かせないと思う。互が刺激し合えば良いのである。いずれも他のクラブで主流の考え方だが、私はそれで良いと思う。

1. 幹事報告

関根正敏幹事

1.1. 全日本プロバス協議会第5回総会

隔年毎の総会が11月13日に神戸で開催され、当クラブから中村昭夫会長、増山敏夫副会長、滝川道子理事の3名が出席した。各地より180名を超すプロビアンが集まり盛会であった。今総会で新会長：加藤武、新幹事長：森山功の両氏（いずれも横濱プロバス倶楽部所属）が選任された。



総会風景

1.2. 滝川益男会員が全日本プロバス協議会幹事に就任

全日本プロバス協議会の要請により上記の報告あり、理事会にて了承。

1.3. 多摩市中学生俳句大会表彰式

12月15日(土)、永山ベルブホールで、東京多摩ロータリークラブ主催、多摩市教育委員会・当クラブ後援の掲題の式が執り行われた。この大会には市内9校、2,520句の応募があり、

この中から審査委員長賞・多摩市長賞はじめ佳作も含め入賞75名が表彰された。年々応募数が増え市内中学生のほとんどが応募すると



表彰された中学生の皆さん

いう状況であった。当クラブから中村会長、関根幹事が出席し、東京多摩プロバスクラブ賞(5点)を授与した。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

北村克彦委員長

1)11月をもって松永弘会員が退会され、12月1日現在の会員数は35名(うち2名が休会中)となる。

2)11月度定例会(11月7日) 出席：25名 欠席：8名 講話；多摩市教育委員会学芸員山崎和巳氏による「多摩の歴史 その2 古墳時代の多摩」 関連記事P3参照

3)12月度定例会(12月5日) 出席：29名 欠席：4名 卓話；中村昭夫・北村克彦両会員による特別企画「ラジオの時代を振り返って」 関連記事P4参照

2.2. 研修・親睦委員会

上田清委員長

1)紅葉の高尾山ハイキング

11月21日に実施、参加者14名(ケーブルカー組7名、登山組7名)、当日は好天に恵まれ全員元気に登頂に成功(?)。深まりゆく秋を楽しんだ。 関連記事P6参照

2)忘年会

12月5日、定例会終了後に京王クラブで開催、東京多摩

ロータリークラブ、東京八王子プロバスクラブ、東京日野プロバスクラブ、当会員を含め41名が参加し、行く年来る年を語り合い、相互の親睦を深めた。関連記事P8参照

2.3. 地域奉仕委員会

滝川道子委員長

1)12月13日(木)、都立永山高校の教養・マナーの授業にて吉岡喜久恵会員の「貝合わせ」の講義と実演を実施。

2)平成25年1月10日(木)、国土館大学の教職課程の1~4年生400名を対象に、滝川道子会員が「江戸しぐさ」の講演を予定。

3)寺子屋そろばん教室は、例年通り古澤靖雄会員により小学3年生を対象に3学期実施予定。各小学校と日程等調整中です。開講に当たり会員各位の応援をお願いします。

写真右；
地域奉仕
委員会の
皆さん



2.4. 広報委員会

稲田興委員長

1)プロバスニュースの発行配布

第46号は平成25年1月9日発行予定。

2)ホームページの更新

最新のホームページは1月に更新予定。

3. 第2回全日本プロバス協議会関東中央地区交流会

増山敏夫交流担当

2月20日(水)、桜美林大学「多摩アカデミーヒルズ」にて、当クラブの他8クラブの参加で行われます。

第1部(活動報告)11時~13時

第2部(懇親会)13時~15時

会費5,000円、参加予定 約50名(約半数がお客様)

約半数の会員参加を予定しています。なるべく多くの参加をお願いします。

なお、ホストクラブとして事前の準備、当日の準備もありますので、会員の皆様には宜しくをお願いします。

4. 創立10周年記念事業プロジェクトチーム

大澤亘リーダー

本年度第2回理事会(8月29日)で新たに設立された当チームは、メンバーを11名(稲田、神谷、北村、鈴木達夫、滝川道子、登坂、平田、古澤、増山、山田、大澤の各会員)に絞り、10月22日(月)に第1回の会議を関・一つむぎ館で、11月19日(月)に第2回を唐木田菖蒲館で行った。

第1回では山田正司会員をサブリーダーに選出し、前年度のプロジェクトチームの報告書の内容を確認したうえ、メンバーを①式場・祝賀会、②記念行事、③広報のワーキンググループに分けて検討を進めることとした。第2回ではこの各グループごとに検討状況の報告があり、それに基づいて論議した。第3回は12月19日(水)に開催。

「古墳時代の多摩——稲荷塚古墳・臼井古墳を探る」

講師：多摩市教育委員会・学芸員 山崎和巳氏

11月定例会に多摩市教育委員会の山崎和巳氏をお招きして、「多摩の歴史その2」「古墳時代の多摩——稲荷塚古墳・臼井古墳を探る」と題し、古墳時代後期6・7世紀の多摩と周辺古墳群について語っていただいた。以下は約1時間に及んだ講話の、ほんの骨子にすぎない。興味深い講話の全文を載せられないのが残念である。なお（ ）内は編者のつぶやき——編；総務委員会 滝川益男会員



「王家の谷」

古代「武蔵国」（今の東京都、埼玉県と神奈川県東部）の様相を概観すると、中央で645年「大化の改新」により、中国の律令制度にならった、新たな中央集権的体制を作り出す政治改革が行われ、8世紀初めに大宝律令（701年）が制定されると、東山道武蔵路の整備にともない、多摩川中流の武蔵野台地南端の一角に「武蔵国府」が置かれた（今の府中市）。「武蔵国府」は相模・上野・下野等国府とともに、当時の蝦夷地（東北地方）を睨む大和朝廷の砦でもあった。律令国家の時には、武蔵の国全域で人口約13万人～約18万人位だったと推定されている。

この時代、多摩川に沿って下流から上流へ向けて、時代ごとに古墳群が造営されていった。最下流域の田園調布あたりには3～4世紀に「前方後円墳」ができ、下流域から中流域の世田谷や狛江周辺は6～7世紀に古墳群が造られ、中～上流域には7世紀に「武蔵府中熊野神社古墳」や「三鷹市天文台構内古墳」が造られた。

同時に、多摩川支流（今の多摩市）の大栗川下流沿いの和田・百草の台地に「稲荷塚古墳」や「臼井塚古墳」、「塚原古墳群」を含む『和田古墳群』が造営された。特に「稲荷塚古墳」は、その胴張り複室形の石室形態から東京都の史跡に指定された（昭和28年）。当地域の首長墓である稲荷塚古墳を含む、古墳が集まるこの和田・百草の地域は、こうしたことから「王家の谷」とでも呼べる地域といわれている。（古代エジプトの歴代ファラオが眠る「王家の谷」もナイル河岸にあるしなあ…わが多摩市が、あの古代都市ルクソールに似ていたとは、これは新発見じゃあないか！）。

同時に、多摩川支流（今

の多摩市）の大栗川下流沿いの和田・百草の台地に「稲荷塚古墳」や「臼井塚古墳」、「塚原古墳群」を含む『和田古墳群』が造営された。特に「稲荷塚古墳」は、その胴張り複室形の石室形態から東京都の史跡に指定された（昭和28年）。当地域の首長墓である稲荷塚古墳を含む、古墳が集まるこの和田・百草の地域は、こうしたことから「王家の谷」とでも呼べる地域といわれている。（古代エジプトの歴代ファラオが眠る「王家の谷」もナイル河岸にあるしなあ…わが多摩市が、あの古代都市ルクソールに似ていたとは、これは新発見じゃあないか！）。

テラスを有する角形古墳

多摩川左岸の国史跡「武蔵府中熊野神社古墳」や「三鷹市天文台構内古墳」などの墳形は「上円下方墳」であるが、多摩川左岸の「稲荷塚古墳」は、八角形の墳墓である。上

円下方墳も八角形墳も、いずれも全国の古墳では稀少な形態の墳墓である。全国にある古墳の数は15万以上といわれるが、八角形墳は現時点では十数例にすぎない。これはその稀少さを物語っている。こうした意味でも、「上円下方墳」や「八角形墳」は、卓越した古墳造営技術者集団



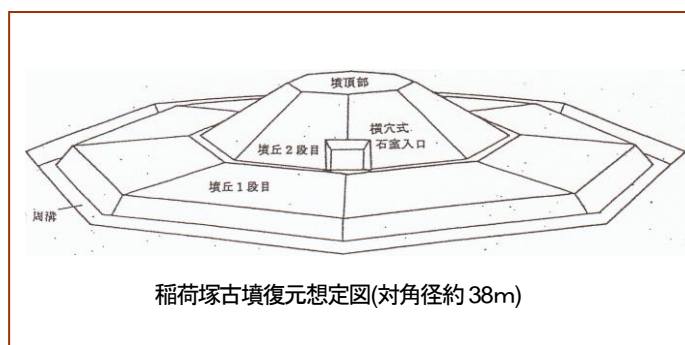
稲荷塚古墳跡（和田の恋路稲荷神社）

を擁し、中央の大和政権と密接な関係を有した人物・首長の墓と推定される。また、「八角形墳」の形状は、テラス状の1段目と、中央に人工的に盛土して造られた2段目があり、あたかも角状の皿に盛られたチャーハンのような形に似ている。また、八角形の形については、仏教あるいは中国思想の影響とする説もある。（念のため「銀竜」でチャーハン1コを注文したら、なるほど丼は八角形だったし、焼き飯はこんもりとマウンド状に盛られていた）。

「臼井塚古墳」は後継者の墓？

この稀少な「八角形墳」の一つである「稲荷塚古墳」の石室は、「切石積み胴張り形複室石室」である。ここで「切石積み胴張り」とは、四角に切った泥岩をずらせながら組んでカーブをつけていく方法で、きわめて高度な技術を要するものである。こうした古墳造営技術は、渡来系集団との結びつきを深く関与させるものである。「稲荷塚古墳」の西に隣接する「臼井塚古墳」の形は不明であるが、前者が首長の墓であるとすれば、同形態の一回り小さい石室の「臼井塚古墳」は、その後継者（親族？）の墓と推測される。

多摩市立第二小学校あたりは、江戸時代に書かれた『新編武蔵風土記稿』によれば「40、50ほどの塚があった」と記されているが、ほとんどが分からなくなってしまい、幻の古墳群とされていた。しかし昭和58年の発掘調査以降、現在までに11基の古墳が発見され、その大きさや埋葬施設・副葬品など貴重な発見が相次いだ。地下にはまだいくつかの古墳が眠っていると考えられる。これらの古墳は、付近の古い地名をとって「塚原古墳群」と呼ばれている。（多摩市はその昔から王族のベッドタウンだったのだ。ふとタイムスリップし、緑なす百草の丘をそぞろ歩いたら、勾玉を胸に飾った王女が黒髪をなびかせ、ふくよかな笑みをたたえて出迎えてくれた…なんて、やっぱり夢だったか？）。



稲荷塚古墳復元想定図(対角径約38m)

特別企画 ラジオの時代を振り返って

「心に宿るあの歌 皆で歌を！」 中村昭夫会員
テレビが普及する昭和 35 年以前は、多くの日本人はラジオを通してニュースを知り文芸・演芸・音楽などを楽しんでいた。ラジオはテレビとは違って耳を通して体に入ってくるので、自分なりのイメージを描いて楽しむことができた。人にとってイメージを描く、夢を描くということは生き方を豊かにしてくれるように思われる。

戦時中で印象的なラジオ放送は、「大本营発表、東京湾に向かって敵機来襲。戦闘態勢に入れ、女・子供は避難せよ」であった。もうひとつのラジオ放送は昭和 20 年 8 月 15 日「終戦を受諾する天皇の玉音放送」である。夏休み中であったが小学生全員学校に呼び出され玉音放送を聞かされた。

戦後は、ニュースだけでなくラジオドラマや落語や漫才などの演芸、音楽などラジオにかじりついて聴いたものである。すべて耳を通してインプットされ自分なりに主人公や情景をイメージして、その中に没頭した。ラジオドラマでは「おらあ三太だ」や「鐘の鳴る丘」「えり子とともに」「君の名は」などが大ヒットして、多くの人達がラジオに釘付けになった。音楽は、童謡から歌謡曲、クラシックなど多岐にわたりラジオから流れてきた。またアメリカ音楽の代表的なジャズも流れ、この新しい音楽に魅了された。

昭和 21 年からラジオ歌謡が放送され新しい歌が数多く生まれた。ラジオ歌謡は戦時中、国民歌謡として戦争を鼓舞する歌が多く作られたが、戦後は GHQ の統制もあり戦争色は排除され明るい歌や楽しい歌などが作られた。ラジオ歌謡番組は昭和 37 年に終了するまでに 845 曲の歌が生まれ、またラジオドラマの主題歌や挿入歌として数多くの名曲が生まれた。

私が所属する「多摩男声合唱団」では、2009 年演奏会にて「ラジオの時代」というタイトルで、ラジオ歌謡曲・ドラマ主題曲などから 8 曲を選んで専門家に男性合唱用に編曲してもらい演奏した。大変好評なステージであったので、その中から何曲か選び、皆さんで「多摩男声合唱団」の演奏を聴きながら唱和し名曲に浸った。

<皆で歌おう曲目>

・山小舎の灯 昭和 22 年ラジオ歌謡米山正夫詩・曲

作者がシベリヤ抑留中に書いた曲。抑留という厳しい環境の中で少しでもロマンを夢想して夢の中の憧れの人を描きながら作ったもの。作者が復員後、この曲に感動した近江俊郎が強引なプッシュで NHK に採用させラジオ歌謡にて大ヒットとなった。

・あざみの歌 昭和 24 年ラジオ歌謡横井弘詩・八州秀章曲

作詞者は東京の空襲で家が全焼となり知人を頼って諏訪湖のほとりに居をかまえた。湖畔や周囲の山々を歩きながら詩作にふけた。素朴に、ひたむきに咲いているアザミの姿に理想の女性像を重ねた詩として国民的抒情歌となった。後に倍賞千恵子によっても歌われた。

・森の水車 昭和 26 年ラジオ歌謡清水みのる詩・米山正夫曲

昭和 17 年に高峰秀子によって歌われ大変明るくリズムミカルな曲であったため戦時体制下には不釣り合いとして放送禁止となった。昭和 24 年に高峰秀子主演の映画で採用され、26 年にラジオ歌謡として取り上げられた。この歌の明るい響きは戦後から立ち直りつつある世の中に大きな光を与えた。

・白い花の咲く頃 昭和 25 年ラジオ歌謡寺尾智紗詩・田村しげる曲

敗戦の混乱がようやく収まり就学や就職のために多くの若者が都会へ出てきた。この歌によって若者たちには中学や高校の卒業式が終わった 3 月末頃に咲くコブシやハナミズキなどの白い花が思い出され、故郷に残した思い出が甦り胸をついたであろう。

・隣組 昭和 15 年岡本一平詩・飯田信夫曲

戦時体制下で国の命令によって 5 軒から 10 軒を 1 単位として隣組組織が作られた。当時は戦争への宣伝啓発、スパイや反戦活動を監視する役割を持たされたが、近所同士でお互いに助け合っけてゆく組織でもあった。戦後、互助を促進するためにこの歌が多く歌われた。

・雪の降る街を 昭和 24 年ラジオドラマ曲内田直哉詩・中田喜直曲

ラジオドラマ「えり子とともに」の挿入歌として作られ、劇中出演者達が歌い大ヒットした。作曲者はショパンの幻想曲にヒントを得て後は独創にて作った歌である。
・イヨマンテの夜 昭和 24 年ラジオドラマ挿入歌菊田一夫詩・古関祐而曲

ラジオドラマ「鐘の鳴る丘」の劇中の山男をテーマとした歌。伊藤久男の歌唱力によって大ヒットした。最初の「アーホイヤー・・・」は雄叫びにも似て圧倒させる歌である。当時のど自慢の定番の歌であった。イヨマンテとは熊送りの儀礼のことである。

「戦中・戦後のラジオ事情」 北村克彦会員

1. 戦争中の放送

太平洋戦争の開戦と同時に放送は大きく変わった。気象報道管制もその一つ。天気予報はもとより気象に関する情報は、敵の空爆に利用されかねないという理由から一切放送禁止となった。昭和 16 年 12 月 8 日朝を境にラジオや新聞から天気予報が姿を消した。天気予報の復活は終戦から一週間後の正午のニュースの後からである。

2. 玉音放送

昭和 20 年 8 月 11 日、ポツダム宣言の受諾と戦争の終結を天皇自ら国民に伝える「玉音放送」の実施に同意され、8 月 14 日正午過ぎ情報局から「終戦の詔書が陛下のご放送で伝えられるので用意してもらいたい」との依頼があった。間もなく生放送ではなく、録音をとることに決まり、録音班 5 人を含む 8 人が宮内省の車で午後 3 時ごろ宮城に入った。その後、すべての準備を整えたが、詔書の中身をめぐって閣議が紛糾し収録は深夜にもつれ込んだ。午後 11 時 25 分、天皇が政務室に入られ、2 回の取り直しの後録音を完了した。すでに 8 月 15 日を迎えていた。普通ならば録音盤は放送局が預かって持ち帰るところだが、陸軍の青年将校の間に不穏な動きが出ていたため、一晩、宮内省に保管を依頼することにした。

放送局一行が車を連ねて帰る途中、坂下門で着剣の近衛兵に呼び止められ、録音盤を渡すよう命じられたが、兵士たちは結局録音盤を奪取できなかった。

15 日午前 3 時前、内幸町の放送会館は着剣した 60 人ほどの兵士によって占拠されたが、駆け付けた近衛第 1 連隊の大隊長の「今後は放送阻止から報道援護に変更せよ」との命令によって、通常より 2 時間 21 分遅れてこの日の放送が始まった。最初の放送は正午からの「玉音放送」の予告であった。

3. 放送に対する GHQ の関与

終戦後、放送は CIE(民間情報教育局)ラジオ課の監督下に置かれ、次々に新しい民主的番組の放送指令が出された。従来 1 ヶ月単位で編成されていた放送番組は一週間単位に改められ、一番組の放送はすべて 15 分単位のクォーター制に変わった。アメリカの国益を阻害する情報を伝えることを禁止し、アメリカにとって有害情報の流布を検閲という手段で阻止しようとした。放送の事前検閲は昭和 22 年 8 月 1 日まで続き、以後、事後検閲となり 24 年 10 月には検閲が廃止された。

4. 戦後のラジオドラマ

多くのラジオドラマが作られ放送された。「鐘の鳴る丘」「えり子とともに」「君の名は」などが代表的である。「鐘の鳴る丘」(菊田一夫作)は昭和 22 年 7 月 5 日から 25 年 12 月 29 日まで放送された。街にあふれている戦災浮浪児を占領軍も何とかしようとして、菊田一夫が占領軍 CIE に呼び出され、浮浪者救済のソープ・ドラマをやれと命じられた。条件は 1 回の放送時間が 15 分で土日を除く毎日というものだった。せめて 20 分にしたいというのに占領軍の命令ということで引き受けざるを得なかった。「えり子とともに」に引き続いた「君の名は」の放送時には大衆浴場がカラになるというほど女性はラジオにかじりついて熱中した。

5. ラジオ歌謡

昭和 11 年 4 月、BK(NHK 大阪)が「家庭で歌える流行歌を独自に作ろう」という趣旨で「新歌謡曲」という番組を放送、好評により 6 月から「国民歌謡」として定期放送された。12 年、日中戦争に突入、国民歌謡も次第に戦時色を増し、AK(NHK 東京)、BK 制作以外に国策的に内閣情報部選定の曲も多くなった。16 年「めんこい子馬」を最後に番組名は「われらのうた」となり不定期となった。17 年より、戦争に勝ちぬく、士気高揚を目的とした「国民合唱」となり玉音放送のあった 8 月 15 日の前日まで放送された。ただ、「軍国歌謡」を単なる軍歌や、時局歌謡に限定せず、「愛染かつら」「旅の夜風」「並木の雨」「マロニエの木陰」「十三夜」「新雪」などが、戦時下における大衆歌謡という拡大解釈で認められた。ただし、「酒は涙か溜息か」「影を慕いて」などはあまりにも軟弱すぎるということで放送できなかった。

① ラジオ歌謡

戦後、NHK が音楽的レベルを保ちながら、明るく活力に満ちたオリジナルな歌謡番組を開発すべく「ラジオ歌謡」を企画し、当時人気のあった作詞家や作曲家の古関裕而・佐藤ハチロー・中田喜直らに委嘱して昭和 21 年 5 月 1 日から 37 年 3 月までの間 845 曲を放送した。多くの人達がこの歌謡番組によって慰められ励まされた。

② のど自慢

昭和 21 年 1 月 19 日に「のど自慢素人音楽会」という番組を企画し放送した。最初の頃は事前にテストをして合格者のみの放送であった。一回の放送に 900 人以上が集まった。

③ 紅白歌合戦

昭和 20 年大晦日に「紅白音楽試合」(合戦という言葉は GHQ からクレームがつき使えず)が放送されたが一回限りで終わった。26 年 1 月 3 日に第一回紅白歌合戦として復活、それ以後は大晦日の定例番組となる。

(参考：日本放送協会編 20 世紀放送史 丸山鐵男著「ラジオの昭和」)

11 月の誕生者の皆さん、12 月の誕生者の該当なし



左側から吉岡喜久恵 村上伸茲 倉賀野武士の各会員

1. 多摩モノレール沿線の散策 鈴木泰弘会員

快晴・無風の絶好の行楽日和となった10月15日、脚に自信の17名は研修・親睦委員会主催の防災体験とコスモス見物に充実した一日を過ごした。先ず訪れた防災会館では2時間にわたり色々学び体験した。

① 東日本大震災などの記録映画の鑑賞

津波の恐ろしさ、火災の凄まじさを大スクリーンからと不気味に震動する椅子で実感し、必ず来るという首都直下、東海地震への気持の備えを新たにしました。

② 地震体験コーナー(写真右)

ここでは4~5名ずつに分かれて震度5.7を体感した。直下型地震ではいきなりドンと突き上げてくるのでどうすることもできないことを実感した。昔の標語「地震だ!火を消せ!」は古い。今は「地震だ!先ず身の安全!」だ。



③ 煙体験コーナー

火災から発生した煙からいかに身を守るかを体験。姿勢を低くしてハンカチなどで口と鼻をふさぎ、片手を壁につけて歩くこと。ドアは押してダメなら引いてみる。こうして何とかお互いの無事を確認して終了。全員評価Aをいただいた。なお、応急救護訓練や、消火訓練は次回のお楽しみとした。



コスモス花壇前で参加の皆さん

午後は弁当を持って広域避難指定の昭和記念公園に歩いて行った。汗ばむ陽気の中、金木犀の香りに包まれ、いまだ7分咲きとはいえコスモスの群落到に感嘆の声を

上げ、京都の離宮を思わせる日本庭園やトンボの池などを巡って約6時間15,000歩の大散策であった。

2. 日本の伝統文化サロン 滝川道子地域奉仕委員長

11月16日開催の「志学サロン」での講座も5回目を終えることができました。今回のテーマは「江戸しぐさ」から「ありがとう」の大切さです。毎回楽しみにして下さる方、初めてお見えになった方、13名の方々が出席して下さいました。レジメを紹介します。

「心栄えや振舞いを磨いた江戸しぐさ」

1. おめみえしぐさ

- ・江戸しぐさは上に立つ者の哲学(商人しぐさ・繁盛しぐさ)
- ・「仕草」でなく「思草」

2. 「江戸しぐさ」

- ・相手を尊重する「江戸しぐさ」

死んだらごめん・お心肥し・外っ国づき合い・袖すり合うも他生の縁・肩引きしぐさ・カニ歩き・うかつ謝り・会釈のまなざし・こぶし腰浮かせ

3. 「江戸しぐさ」は口承文化

4. 「江戸しぐさ」の本質(江戸っ子の条件)

- ・目の前の人を仏の化身と見る・時泥棒をしない・遊び心を持っている・肩書きを気にしない

以上の内容で日常の中でのことをやりとりしながら進めました。例えば、「ありがとうございます」は字では「有り難う」めったにありえない(有り難き)ことへの感謝の言葉で昔も今も日本語の中で一番美しい言葉の一つと言われています。誰でもが言われると嬉しい気持ちになる言葉のトップです。ご飯をよそってもらってありがとう、お味噌汁をよそってもらってありがとう、「ありがとう」が家中にあふれていると外に出ても「ありがとう」がスッと出てきます。やって嬉しい、見て嬉しい、されて嬉しい「江戸しぐさ」さあ、今からね。

3. 紅葉の高尾山(599m)を登ろう 瀬尾日出男会員

11月21日微風・快晴の絶好のハイキングの日和、研修・親睦委員会主催で予定通り9:30に京王線高尾山駅に集合。当日参加者14名。行程は西村政晃・上田清両会員の周到な準備のもと、ケーブルカー組と山歩きハイキングの2班に分かれスタート。週半ばの平日というのに駅前の混雑の凄さに驚かされた。山歩きの組は西村さんから眺望の良い稲荷山コースを進むとの指示あり、紅一点山ガールの菊池宣子会員を交え7名でスタート。間もなく鈴木達夫会員より準備体操のストレッチを受ける。その気配りに感謝。

快晴の中、見頃の紅葉を見つめながらゆっくりと尾根道を辿る。山好きの人達は経験話を楽しんでいた。途中、休憩のあずまやにより、眼下に広がる緑眩しい高尾の森、市街地、遠く都心方向の展望、新宿副都心ビルの間から微かに見える東京スカイツリーなど疲れを忘れさせてくれた。結構起伏に富み、きつい階段もあり登ること約2時間で山頂に到着。気が付けば眼前に真白な富士山、手前に丹沢の山々が青空をバックに展望が開け、我々を迎えてくれた。頂上付近は案の定、人・人・人の老若男女で大賑わい。



ケーブルカー組とやっとのことで昼食場所を確保、談笑し合いながら東の間の時間を過ごす。

帰りも2班で行動、北斜面の落葉・広葉樹の森が続く4号路コースで少々肌寒さを感じながら無事下りてきた。約1時間半で登山口にて合流。その後は名物の「そば」を堪能する者、付近の紅葉を楽しむ者とそれぞれ時を過ごし解散した。親睦が図れ、大いに楽しんだ。



高尾山頂(599m)で参加の皆さん

句会会は「からまつ」主宰由利雪二先生・石川春兎先生のご指導のもと、14名の会員が月々の兼題や自由題の作句に挑戦し句会で楽しんでおります。発足以来約5年が経ち、最近では句会での選句にも迷うほどに上達して来ました。雪二先生からもレベルが高くなってきたとの評価を頂いています。また、12月15日に東京多摩ロータリークラブ主催の多摩市中学生俳句大会表彰式が執り行われました。当句会は中学生の若さに満ちた瑞々しい2,500余の句に接する機会を得、我々自身も俳句の魅力をあらためて感じた次第です。

新年にあたり新春を寿ぎ、またこの1年の代表作1句とその自句自解を掲載し活動の一端を紹介致します。

(文責 登坂征一郎会員)

新春を寿ぐ 句会

今暫し遠らねばならぬ春春春
 神酒供え祖父を追思の鍛冶
 あらたまの富士頼もしく誓えけり
 初富士や一日一笑壽の朝
 新婚の孫を中心年嬉酒
 ありがたや達磨朝日のお元日
 今年こそ初日に誓う絆かな
 永からむ健康壽命慶正月
 初富士やノックアウトのボクシング
 二階から初富士望むめでたさよ
 シャッターを押しておもむろ富士拝む
 お神酒入れ或合い十分初ゴルフ
 夢を終えまた夢を見る絹の道
 あらたまの恙恙き世を祈るかな

玄海 秋霜 岳人 志水 光花 胡桃子 猛虎 畦道 透水 雲海 浮草 魚水 流馬 爽風

私の一句 [自句自解]

趣味は裏一病背負う去年今年 秋霜
 齢八十路に至り、若き頃の不振生が祟り腰と肺を手術。
 雑件の役務の合間、幼き頃の覚えが蘇り、土に親しむ句。
 強がりの衣着替えて初詣 浮草
 何これしきと過ごすうち鼻血を出して血圧二百。頼る男
 の子も居らぬ故、頼みは血圧降剤。苦しい時の神頼み。
 歳時速八十キロの初暦 光花
 傘寿近い私の時間はミサイルのように速い。時速八十キ
 ロ。反省する暇もない。今春は歳より遅く暦を捲る。
 野水仙海の蒼さと向きあへり 志水
 寒風の岬に凜として咲く野生の水仙。内に秘めた力で海
 と対峙する強さと気品に心を動かされた。

ひとひらの花盃に影ゆるる

猛虎

満開の桜の下桜ヶ丘公園にて野点席を兼ねてのお花見は、
 着物姿が昔の可憐さを偲ばせてました。酔いもすすむ。

梔子の一日だけの白さかな

岳人

梔子の芳香のある白い花は段々黄ばんでくるが、目の
 前のくちなしの花は今まさに純白。しばし眺めている。

雨垂れの時を穿つや五月間

爽風

雨垂れの音が止むことなく時にはリズムを変え、闇を衝
 く。眠れぬままに來し方行く末が脳裏を駆け巡る。

多摩川の鮎を語りし古老あり

流馬

四十年前多摩に引越してきた時、多摩川の土手で老釣
 り人より話を聞く。

避難所へ辿る坂道土用波

畦道

311大津波に逃げ感い、声を掛け合って避難所に向か
 った人々の思いは?。「釜石の奇跡」を訪ねて。

コスモスが広がりあって渡る風

透水

昭和記念公園は五五〇万本のコスモスが一面に咲き誇り
 陽を浴びて眩しく輝き、左右に揺られて風が渡っていく。

ワイシャツの袖の冷たさ青雲村

魚水

ワイシャツの袖に腕を通した瞬間、初めて冷たさが走っ
 た。庭の蜜柑はまだ青いのに季節は移り変わって行く。

茶の花や小さく白く涼と咲き

雲海

茶の木は椿の仲間。真冬にこんもり繁る葉の奥を覗くと
 可憐な花をつけています。凜とした咲き姿です。

雑踏に身を置く安堵暮の市

胡桃子

暮の忙しい最中、煩わしい一切をおっぼり出して目的も
 なく雑踏に身を委ねる安心感、贅沢な孤独感。

百八つ撞きても足らぬ除夜の鐘

玄海

現世は余りにも煩惱多くして、百八つの除夜の鐘だけで
 は消すことができません。困ったものですね。

◆◆◆ 会員の活動 ◆◆◆

1. 「全陶展」で入賞

上田清会員

招聘審査員に黒田和哉氏の名のある第42回公募全陶展に見事二点も入選した。東京都美術館 11/17～11/24 開催。



群青 薩南諸島



油滴天目茶碗

左の作品は題名に「群青 薩南諸島」とあり、皿の正面に鹿児島湾がコバルトの波の中に白色の濃淡で描き出されている。決して偶然では出てこない。焼き物は「火の神」に委ねる面も多く、作家は畏敬の念をもって窯入れをする。窯出しの時、大皿を手に喜んだであろう様子が目に浮かぶ。群青・白群青・紺青とすべて表現され、美しい。目にした人誰もが、豊かな南国の海に魅せられる。

右の作品は、かねがね抹茶茶碗を作陶されていると聞いていたが、「油滴」とは会場に来て知り、驚いた。天空の神秘玉虫色の細かい星々が、漆黒釉を背景に輝いている。碗の見込み、高台脇に展示のライトが的確に当てられていれば、素人目にも良く解ったであろうと悔やまれる。初め300個の碗の作品が各段階で徐々に減り、最終的に数碗になった由。卓越した技術と作家の情熱・気力・体力の殊勝な事！

抹茶を一服いただいた後に浮かび出る小宇宙に何時も見えることができるのか、今からワクワクしている。

(阪東熙子会員記)

2. 煎茶道具逸品会の添釜

小西加葉子会員

11月22日初日。京王聖蹟桜ヶ丘店において、黄檗東本流の小西鶴葉教授席として、来客に煎茶を振る舞われた。小西会員は文武両道の達人で、家元行事に参じる為、京都他の地方にも出向き活躍している。



プロバスのお茶の会員と共に
後列右から二人目が小西会員

当日は珍しい「仏手柑」の生の黄実を飾られ、また湯沸かしを置くわらび手の五徳は上田会員に特注し、盆は唐物、茶碗は竹箆の金欄手等、お蔵の深さに感心した。

黒の道衣を纏った小西会員の教授ぶりに、一同緊張気味。「たかが一煎されど一煎」馥郁たる香りが口中に広がり、甘露とはこのことよと、皆納得するお席でした。

(阪東熙子会員記)

◆◆◆ 平成24年忘年会 ◆◆◆

会場に入ると正面の壁に「忘年会」の立派な字が目飛び込み、新参者の私は少し緊張気味。

当PC会員28名の他に、八王子PCより8名、日野PCより3名、多摩RCより2名の方々の参加のもと、それぞれの代表者の御挨拶をいただき、乾杯！

お料理をいただきながら、思い思いに歓談。お酒が入る程に普段にこやかな方々の顔が一段とほころび、本当に楽しそうでした。その内にカラオケが始まり、ますますにぎやかに。いつもとは違う意外な面を発見したり、お話をする機会の無かった方々が声をかけて下さったりで、私の緊張はすっかり解けてしまいました。



最後は皆で輪になって



この楽しさを糧に、来年もきっと何かに貢献できますよう努力しなければと力付けられました。お世話下さいました会員の皆様ありがとうございました。

(菊池宣子会員記)

◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆

○昨年暮れに北村会員が前年同様サンタキャラバンとして石巻市を訪問した。赤い帽子のサンタ姿で子供たちと折り紙で箱を作り、持参のお菓子を入れて喜びはしゃいでいる子らの笑顔を見て、大雪の中慣れない運転で辿り着いた苦労も消し飛んだという。決して忘れてはならぬ震災地の現状を再認識させられ、実行に移す勇気に感銘を受けた。



北村サンタと子供たち

○神戸の全日本プロバス協議会に出席した中村会長によると、この多摩プロバスニュースは大変好評だとの事、誠に嬉しい限りだ。これからも、至らぬ所のご指摘を受けながら、期待に添えるよう続けていかねばならない。

○さて初夢は何を見られたでしょうか？良く「一富士二鷹三茄子」といわれます。一富士は多摩PCソングの「霊峰富士を仰ぎつつ」に重なり、二鷹は明治天皇の鷹狩りの地と重なり、三茄子は読み応えあるニュースを発行する“成す”に結び付けて、強引に我田引水たり。今年も是非皆様にとって、良い年でありますように。(阪東熙子会員記)